

## 整備年代の設定

三河家住宅は、住居として計画されながら、戦災を経て病院、学生への賃貸住居と転用がなされ、改変を重ねてきた。その経過の中で、改変が施された部分と、建設当初の三河義行の趣向が色濃く反映された当初の状態が残る部分との統一的な雰囲気が失われてしまっている。

とくに病院時代の主な改変である、

- ・三階屋根の変更（当初の三階屋根は戦災により焼失している）
- ・二階南側のトイレ増築
- ・二階温室の手術室への改装に伴う屋根の変更

は、応急処置の意味合いの強いもので、現在見られる破損のもともとの要因ともなっている。

今後の保存活用を見据えた場合には、

- ・建造物のもつ特徴を現在よりも引き立たせること
- ・現在の破損の原因を取り除くこと

の両面から考慮したうえで、三河家住宅を当初の状態に復することを目指し、保存・整備を行うことが望ましいと考えられる。